

平成 18 年度国際学術コミュニケーション委員会  
GIF プロジェクト活動報告

1 GIF プロジェクト会議等開催状況

- ・ ISO ILL システム間リンクによる日韓 ILL/DD 本格サービスに係る運用テスト及び本格サービスの実施などについて、電子メール等による協議及び意見交換を実施した。
- ・ ボストンで開催された 2007 CEAL (The Council on East Asian Libraries) Annual Meeting 及び NCC Open Meeting (3月21日～23日(3日間)) に、GIF プロジェクトチームメンバー 1 名が参加、その際、NCC の ILL/DD Committee メンバーとの間で、日米 ILL/DD の諸課題に係る意見交換を行った。

2 活動概要

(1) 日米 ILL/DD プロジェクト

GIF プロジェクト参加状況

参加機関数は平成 19 年 4 月 17 日現在で日本側 121 機関、134 図書館(内訳：国立大学 63 機関 73 図書館、公立大学 4 機関 4 図書館、私立大学 48 機関 51 図書館、大学共同利用機関等 6 機関 6 図書館)、北米側 54 機関、57 図書館であり、平成 18 年 10 月以降日本側 4 機関 4 図書館、北米側 4 機関 5 図書館の増加となっている。

現物貸借サービス参加状況

現物貸借サービスの参加状況は、平成 19 年 4 月 17 日現在で、日本側 70 機関、74 図書館(内訳：国立大学 40 機関 42 図書館、私立大学 25 機関 27 図書館、公立大学 3 機関 3 図書館、大学共同利用機関等 2 機関 2 図書館)、北米側 30 機関 32 図書館であり、平成 18 年 10 月以降日本側 4 機関 4 図書館、北米側 4 機関 4 図書館の増加となっている。

日米 ILL/DD 実施状況

平成 18 年度の日米 ILL/DD の実施状況は、表 1 のとおりである。平成 18 年度は、システム障害のあった前年度に比べ、依頼件数で 43%増、受付件数は 52%増加した。(平成 16 年度と比較しても、依頼件数が 6%増、受付件数は 60%増加している。)

表 1 日米 ILL/DD 実施状況(平成 18 年 4 月～平成 19 年 3 月)

	依頼件数				受付件数			
	完了	謝絶	その他	計	完了	謝絶	その他	計
文献複写	514	522	0	1,036	256	380	0	636
現物貸借	151	180	0	331	110	354	0	464
合計	665	702	0	1,367	366	734	0	1,100

日本側受付分の謝絶率については、平成 17 年度に減少したが、18 年度には上昇に転

じている。(72.4% → 56.8% → 66.7%)。また、日本側依頼分の謝絶率は、51.4% (昨年度: 45.1%) となっている。

ただし、受付分については、所蔵館複数指定の依頼レコードの場合でも、「OCLC のレコード単位」ではなく、「受付図書館単位」の処理結果を掲載している。

#### NCC ILL/DD Committee との意見交換

3月21日(水)、ボストンにおいて、日本側から GIF プロジェクトチーム(茂出木)及びNII(古賀, 関戸)、北米側から NCC の ILL/DD Committee メンバー等(Tokiko Y. Bazzell, Sharon Domier, Kathryn Ridenour, Chiaki Sakai, Hitoshi Kamada, Victoria L. Bestor, Yoko Okunishi)が出席して、北米の ILL 現場で生じている問題点、Webcat Plus に関わる北米側からの要望、料金トラブルへの対処方法、OCLC システムの「4日間」自動転送問題、GIF に係る FAQ の作成など、について意見交換が行われた。

#### NCC ILL/DD Committee の新体制について

1月をもって、以下のとおり、NCC ILL/DD Committee メンバーの交替があった。

Ms. Lynn Kutsukake (トロント大学) については、2006年12月にて任期満了。

委員任期は、3年間とし、毎年その1/3を改選予定。

2007年1月現在の委員は、ILL 専門家4名、地域研究専門家(東アジア・日本)4名、計4名

(Ms.) Sharon Domier, East Asian Studies Librarian

University of Massachusetts Amherst (任期: 2004年3月 - 2007年12月)

(Ms.) Kathryn Ridenour, Head, ILL/DD Dept.

University of Massachusetts Amherst (任期: 2004年3月 - 2007年12月)

(Ms.) Margaret Ellingson, Interlibrary Services Coordinator

Emory University (任期: 2006年2月 - 2008年12月)

(Ms.) Michelle Foss, Interlibrary Loan Librarian

University of Florida (任期: 2006年2月 - 2008年12月)

(Mr.) Hitoshi Kamada, Japanese Studies Librarian

University of Arizona (任期: 2006年4月 - 2008年12月)

(Ms.) Su Chen, Head of East Asian Library

University of Minnesota (任期: 2007年1月 - 2009年12月)

(Ms.) Amy Paulus (co-chair), Interlibrary Loan Librarian

University of Iowa (任期: 2007年1月 - 2009年12月)

(Ms.) Chiaki Sakai (co-chair), Japanese Studies Librarian

University of Iowa (任期: 2004年3月 - 2009年12月)

#### (2) 日韓 ILL/DD プロジェクト

### 暫定サービスの参加状況

平成 19 年 4 月 17 日現在，日本側参加館は，76 機関 94 図書館（国立 46 機関 60 図書館，私立 25 機関 28 図書館，大学共同利用機関等 5 機関 6 図書館），韓国側参加館は，239 館となっている。平成 18 年 10 月以降日本側で 2 機関 2 図書館が増加している。

### 日韓 ILL/DD 実施状況

平成 18 年度の利用状況を表 2 に示す。

依頼件数については，対前年度比 29%減，受付件数については，同比 50%の増となっている。一方，謝絶率については，依頼で 18.5%，受付で 6.1%，と低い状況が続いている。

表 2 日韓 ILL/DD 実施状況（平成 18 年 4 月～平成 19 年 3 月）

	依頼件数				受付件数			
	完了	謝絶	その他	計	完了	謝絶	その他	計
文献複写	66	15	0	81	1,607	105	0	1,712

なお，平成 16 年 11 月に開始された暫定サービスが平成 19 年 3 月を持って終了し，4 月から ISO ILL システム間リンクによる本格サービスへ移行した。

### 本格サービスに係る運用テストについて

昨年 8 月に開催された KERIS との日韓会議（NII 開催）の合意に基づき，1 月 15 日（月）～2 月 1 日（木）の 3 週間に渡り，本格システム環境下で参加館による運用テストを実施，成功裏に終了した。テストの概要は以下のとおり。

#### 1) 運用テスト参加館

- ・日本側：東京大学，九州大学，東京工業大学
- ・韓国側：Seoul National University，Yonsei University，Inha University

#### 2) 依頼・受付館作業ペア

- ・東京大学 - Seoul National University
- ・九州大学 - Yonsei University
- ・東京工業大学 - Inha University

#### 3) 実施方法

上記各ペア間にて，複写依頼対象の文献（3 件）を予め特定した上で，「謝絶」のケース，「問合せ」のケース，送付方法の指定などを含むシナリオを事前に用意し，それにもとづき，テストを実施した。

### 本格サービスの開始について

運用テストの好結果にもとづき，平成 19 年 4 月 2 日（月）より，ISO ILL システム間リンクによる日韓 ILL/DD の本格サービスが開始された。実施内容は以下のとおり。

#### 1) 実施内容 複写サービスのみ

現物貸借は，複写サービスの実績等を踏まえ検討する。

2) 料金及び決済処理

- ・決済通貨は、「円」とする。
- ・決済には、NIIの料金相殺システムを使用する。

3) エージェント方式からの切り替え

4月を3月までのリクエストの処理期間とした(中間状態のレコードは強制処理)

なお、これに併せ、参加申請のための「グローバル ILL 利用申込書」の様式及び「ILL システム操作マニュアル：ISO ILL プロトコル対応」が改訂された。

3 今後の課題

- (1) 日韓 ILL/DD プロジェクトにおける現物貸借の実施
- (2) 日米 ILL/DD の改善と国際 ILL 担当者のスキルアップ方策
- (3) 北米以外の国々との国際 ILL の展開
- (4) デジタルリソースの形成・流通に関する日米の連携・協力

以上